

50th

気仙沼・本吉地域広

気仙沼・本吉地域広

域行政事務組合

設立

発足

KESENNUMA

MINAMISANRIKU

50

周年記念誌



気仙沼・本吉地域広域行政事務組合設立
消防本部発足 50 周年記念誌

目次

	ご挨拶・祝辞	
	管理者 気仙沼市長 菅原 茂	1
	副管理者 南三陸町長 佐藤 仁	2
	組合議会 議長 鈴木高登	3
	消防本部 消防長 三浦行博	4
	圏域の概要	5
	圏域構成市町紹介	
	気仙沼市	6
	南三陸町	7
	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	
	第1編 組合概要	8
	組合組織図	9
	消防本部概要	10
	リアス・アーク美術館概要	13
	第2編 あゆみ	16
	第1章 広域 50年のあゆみ	17
	広域消防イメージキャラクター	32
	第2章 組合行政のあゆみ	33
	第3編 震災と伝承	38
	消防本部の取り組み	39
	リアス・アーク美術館の取り組み	45
	第4編 資料編	48
	火災・救急統計	49
	リアス・アーク美術館統計	51

管理者 あいさつ

気仙沼・本吉地域広域行政事務組合

管理者 気仙沼市長 菅原 茂



気仙沼・本吉地域広域行政事務組合は、昭和 46 年 8 月に気仙沼・本吉地方の 1 市 5 町で構成する行政機関として設立、翌年 4 月には広域消防が発足し、共に 50 周年を迎えました。

この間、宮城県が広域圏活性化プロジェクト事業として建設したリアス・アーク美術館は、当広域組合の管理運営のもと、平成 6 年 10 月に開館し、これまでに圏域文化の創造に貢献してまいりました。

また、当広域組合市町村合併により平成 21 年 9 月には気仙沼市、南三陸町と 1 市 1 町の構成として再スタートし、組織の連携を一層強化し、よりよい圏域づくりを進めてきたところであります。地域の皆様をはじめ、関係各位のご支援、ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

さて、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、大規模な地震、津波、火災が同時に発生し、当地域は壊滅的被害を受けました。改めて犠牲になられた皆様並びに殉職した職員、消防団員に衷心より哀悼の誠をささげます。

また、震災発生直後から復旧・復興時期まで、国内外の多くの団体や機関などから、多大なるご支援をいただきてまいりました。おかげさまで、まちは新たな発展が望める姿へと変貌を遂げてきました。当組合においても消防施設等の復旧や新たな整備が進められ、震災で得た経験とともに、これからの災害への予防や日常での活動に生かし、引き続き、住

民の生命を第一に、地域の安全・安心を守り、災害に強いまちづくりを実現してまいります。

リアス・アーク美術館では、東日本大震災発生直後から被害状況の記録・調査活動を行い、震災の実態を正しく伝えることを念頭に取りまとめ、「東日本大震災の記録と津波の災害史」という形で展示しております。地域に根ざした文化の紹介と伝承、優れた美術作品等を鑑賞する機会の提供などと合わせて、これからも地域の未来に生かしていけるよう取り組んでまいります。

現在、我が国を取り巻く社会情勢及び自然環境は大きく変化しており、風水害の激甚化・頻発化などや、新型コロナウイルス感染症による影響など、ますます地域住民の生命や財産を守るための取り組みが大切になっていると感じております。

また、全国的な流れの中、当圏域においては加速的に人口減少が進んでおります。その流れを緩和させるためにも、安心安全な社会を維持し、住民一人ひとりが住んで良かったと思えるような地域を目指してまいります。

結びに、設立 50 周年を迎え、これまで当組合の運営を支えてくださった関係者や地域の皆様に改めて深く感謝いたしますとともに、今後も一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、巻頭の挨拶とさせていただきます。

50周年を迎えて

気仙沼・本吉地域広域行政事務組合

副管理者 南三陸町長 **佐藤 仁**



このたび、気仙沼・本吉地域広域行政事務組合が組合設立 50 周年を迎え、心より御祝い申し上げますとともに、この記念事業を企画された関係者の皆様に対しまして深く敬意を表します。

昭和 46 年 8 月に本組合が設立されてから今日までの 50 年間、幾多の「火災」「救急」「救助」「警戒」での活動を繰り返し、地域の発展に貢献していただきました。東日本大震災という未曾有の災害を経験した際も、自然を前にして我々は無力であるということを思い知らされた反面、どんな困難からも立ち上がる人間の強さ、共に助け合う人々の温かさを実感してまいりました。とりわけ復旧復興事業を進める中、力強く、頼もしい存在であったのが本組合をはじめ、全国、世界中の皆様からの励ましや御力添えであります。本組合におかれましては発災直後から町行政と二人三脚で復旧復興にご尽力いただいたことにより、今日があるものと思います。「救急」「救助」等を日頃から訓練している職員だからこそ、時として瞬時に、的確な判断が求められる場面での判断力や決断力には目を見張るものがありました。津波により本町にあった消防庁舎は全てが壊滅的な被害を被ったにも関わらず、地域住民を最優先に思い

七転八起の心意気で常に最前線で活躍する姿は、多くの方々に安心感と希望を与えるとともに、住民からは強い信頼を得たと思います。

本町は、御力添えを頂きました方々に日々『感謝』し、一步一步ではありますが確実に復旧復興に向け歩み続けた結果、創造的復興の完遂が目前に控えております。しかし、将来を見据え自立的かつ持続可能な社会の構築に向け復興の歩みをさらに進展させなければなりません。復興事業の効果を最大限に発揮し地域社会の発展に寄与できるよう、今後も本組合と連携を密に進めてまいります。

結びに、近年は各地で激甚災害やコロナ禍による社会情勢の変化など、消防行政を取巻く環境も複雑多様化しておりますが、本組合におかれましては、今後もこれまで培った経験を活かし災害に対応しつつ、暮らしの再建と生業の再生を成し遂げた地域住民の安全を守り、未来を担う子どもたちが安心して過ごせる社会に向け更なる努力と精進を賜りますようお願い申し上げます。本組合の益々のご発展と職員一同のご健勝を祈念いたしまして、記念誌発刊によせる言葉といたします。

設立50周年を祝して

気仙沼・本吉地域広域行政事務組合議会

議長 鈴木 高登



このたび、気仙沼・本吉地域広域行政事務組合並びに組合消防が設立 50 周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。

広域組合は、昭和 46 年 8 月に気仙沼市と本吉郡の 1 市 5 町を構成団体とする組合として設立され、翌年 4 月に広域消防が発足し、平成 6 年にはリアス・アーク美術館が開館しました。以来、平成 17 年に志津川町と歌津町が合併し、南三陸町が誕生しました。翌 18 年には気仙沼市と唐桑町が合併し、平成 21 年の気仙沼市と本吉町の合併を経て、現在の 1 市 1 町の広域組合として今年 50 年の節目を迎えることができました。

この間、消防においては火災、救急、救助などあらゆる災害に対処するため、人材育成や庁舎・車両の更新など、消防体制の充実強化を図りました。美術館においては当圏域を含む東北・北海道の地域文化、芸術文化の調査研究、蓄積を基本方針とし、歴史・文化が息づく心豊かな地域づくりの振興に努めてまいりました。

また、東日本大震災以降は防災啓発の消防活動と美術館事業を通じての震災の伝承という新たな使命を掲げ、地域住民の安心安全を支えてまいりました。

これらの活動により、圏域住民の信頼を集め、地域に溶け込み、愛される広域消防と美術館として、

今日まで発展を遂げてきたところです。これもひとえに、圏域住民の皆様をはじめ、関係各位の御支援、御協力とともに、職員の皆様が不断の努力を重ね、献身的に業務に精励されてきた賜物であると、心より敬意を表する次第であります。

近年は、三陸縦貫自動車道の全線開通により住民の生活圈や経済活動が拡大された一方、大規模な自然災害や新型コロナウイルス感染症がもたらす影響など類のない事態への対応が求められております。故に市町を超えた広域行政目線で消防機関の果たす役割は、ますます重要になってきており、圏域住民の皆様のご期待も高まっているところです。どうか 50 年にわたる歳月の中で培ってきた経験と技術力を発揮していただき、引き続き圏域住民皆様の生命や財産を災害等から守り、安心安全の確保に取り組まれることを切望いたします。

組合議会といたしましても、これまで諸先輩方が紡いで来られた歴史を大切に、圏域の課題解決に向けてそれぞれの立場で何ができるのか考え、住民の期待と信頼に誠心誠意応えてまいります。

結びにあたり、50 周年記念事業関係各位のご尽力に感謝申し上げますとともに、組合の更なるご発展と圏域住民皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

50周年を迎えて

気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部

消防長 **三浦 行博**



昭和 46 年 8 月に 1 市 5 町により気仙沼・本吉地域広域行政事務組合が設立され、翌年 4 月には広域消防が発足し、本年度で 50 周年という記念すべき年を迎えることができました。

広域消防は、前気仙沼市消防本部職員を基に実員 73 名でスタートし、半世紀の間に実員 187 名まで拡充されるとともに、消防施設や装備の充実強化が図られ、社会情勢の変化とともに近代消防へと歩みを進めてまいりました。ここに半世紀を振り返るとき、幾多の災害活動があり、圏域住民の安全を確保するために果敢に活動した歴代消防長や先輩諸兄のご苦勞に思いを馳せ、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

11 年前の東日本大震災では消防職員 10 名が殉じ、活動拠点となる 4 か所の消防庁舎が壊滅的に被災するなど、広域消防にとって最大の試練でありましたが、震災発生直後には全国から駆け付けた緊急消防援助隊の活動支援を受け、消防業務にあたり急性期を乗り越えました。復旧復興期には関係各位のご尽力により、活動拠点となる消防庁舎を新たに整備することができました。支援や応援を頂きました全国の皆様にも感謝申し上げます。

さて、近年は全国で相次ぐ自然災害の発生や大規模地震発生の危惧、世界規模での感染症の拡大、武力侵攻による影響など、予測が困難で見通しが利きづらい社会情勢であり、今後も続くことが予想されます。消防を取り巻く環境も大きく変化しているとともに、住民の安全・安心に対する関心も益々高まっていると認識しているところです。

広域消防は各種災害に対応すべく、半世紀の中で培われ、受け継がれてきた教訓や経験を基に、基礎的な教育訓練はもとより高度な知識・技術の習得、人材育成、他機関への派遣など計画的に実施し、消防体制の強化を図ってまいります。

また、関係機関との連携をさらに強固なものとし、いかなる時でも迅速かつ臨機応変に対応できる組織であり続けられるよう、今後も地域に寄り添い、復興した圏域の生活を守るため、次の半世紀に向け精進を重ねてまいります。

結びにあたり、今後も関係各位の広域消防に対する変わらぬご指導とご協力をお願い申し上げ、発足 50 周年を迎えての挨拶といたします。

圏域の概要〔気仙沼・本吉地域〕



気仙沼・本吉地域は、気仙沼市と南三陸町の1市1町で構成され、宮城県の北東端に位置し、東は雄大な太平洋に面し、西は北上山脈系の支脈の稜線で、岩手県や宮城県の内陸の市と接しています。南北に約45km、東西に約20km、総面積は495.84 km²で宮城県全体の6.8%を占めています。太平洋側は、複雑に入り組む変化に富んだ美しいリアス海岸で、陸中海岸国立公園、南三陸国立公園の指定を受け、多くの観光客が訪れています。

平成25年5月には、構成市町の気仙沼市と南三陸町が東日本大震災により被災した三陸地域の復興に貢献するために「三陸復興国立公園」に指定され、また平成30年10月に南三陸町志津川湾が「ラムサール条約湿地」に登録されました。当地域の沖合は、親潮と黒潮がぶつかり合う良漁場で、世界三大漁場の1つ「三陸沖」として知られ、カツオやサンマ等の主漁場となっており、日本各地から「三陸沖」で操業しようと漁船が集まってきます。

気仙沼市は、湾の入口に大島があることで、内湾は波の静かな天然の良港となり、古くから漁業が盛んに行われています。かつて「東洋一」といわれた魚市場は、カツオ等を中心に全国でも有数の水揚げを誇ります。また、南三陸町は、全国に先駆けて銀ザケ養殖に取り組み、沿岸漁業と養殖漁業が盛んに行われており、水産業が当地域の基盤産業といえます。

気仙沼市	
面積	332.44 km ²
人口	59,371 人
世帯数	26,264 世帯

南三陸町	
面積	163.40 km ²
人口	12,089 人
世帯数	4,462 世帯

気仙沼・本吉圏域 (1市1町)	
面積	495.84 km ²
人口	71,460 人
世帯数	30,726 世帯

令和4年7月末現在

～世界とつながる豊かなローカル～

気仙沼

宮城県の北東端に位置する気仙沼市は、湾口に「みどりの真珠」と謳われる大島を抱き、半島や複雑な入り江など、変化に富んだリアス海岸を形成し、四季静穏な天然の良港で、全国有数の漁船基地として繁栄してきた水産都市です。

東日本大震災からの地域再興を目指すため、人材育成の各種施策を進めており、地方ならではの豊かさを追求する市民総参加のまちづくりにも力を入れ取り組んでいます。

産業・経済

水産業と観光業が基幹産業です。特に水産業は生鮮カツオ・メカジキ・サメ類が日本一の水揚げを誇り、また、関連産業として造船や製氷冷凍業も発展するなど、地域経済の中で重要な位置を占めています。このほか、新産業創出のため、幅広い業種の企業誘致にも力を入れています。



港には勇壮な大型船が並ぶ

カツオの水揚げの様子

伝統行事・芸能

豊かな風土に恵まれた気仙沼市には、打囃子や虎舞、大漁唄込、田植踊などに代表される数多くの自然的・文化的遺産があります。心の豊かさが求められる昨今、私たちはこれらの遺産から多くの事を学ばるとともに、大切に保存・活用し、後世への伝承に取り組んでいます。



早稲谷鹿踊(わせやしおどり)



浪板虎舞(なみのいたとらまい)

観光・文化

三陸復興国立公園・海域公園・県立自然公園や、日本ジオパーク・みちのく潮風トレイル・宮城オルレなどの指定を受けたリアス海岸の魅力ある景勝地に加え、特有の地形から海山両方の幸に恵まれており、国内初の「スローフード都市」を宣言するなど「食」を重要な観光資源と位置づけるとともに、自然や産業を活かした体験学習等の誘客に取り組んでいます。

令和3年には市内の三陸自動車道が全線開通し、都市部からのアクセス時間の短縮、利便性が大幅に向上しました。道中にある「気仙沼湾横断橋」は市の新たなランドマークとなっています。



気仙沼湾横断橋

日本一のツツジの名所
徳仙丈山



カツオ、フカヒレ、メカジキは
日本有数の水揚げ量を誇る

マスコットキャラクター



気仙沼市観光キャラクター「海の子ホヤぼーや」は、ホヤの頭にホタテのベルト、サメの皮のマントを羽織り、手にはサンマの剣を持った気仙沼の海の王子様として平成19年7月に誕生。

震災後には「ゆるキャラグランプリ」で東北1位を獲得したほか、お正月には多い年で2,000通を超える年賀状が届くなど、人気度は年々上昇。また、映画やドラマなど数々のメディアへの出演、芸能人による紹介などもあり、その知名度は全国区に広がっています。



～森 里 海 ひと いのちめぐるまち 南三陸～

南 三 陸

南三陸町は宮城県北東部に位置し、町境は分水嶺に囲まれているため、山に降った雨は川を通り、最後は海へと自然の恵みを運んでおります。その流れの中に人々が生きる里があり、南三陸町は森・里・海の大自然と共生している町です。

道の駅「さんさん南三陸」

令和4年10月1日に、志津川市街地における賑わいの新たな拠点として、複合施設道の駅「さんさん南三陸」がグランドオープンいたしました。町の新たな顔となるこの施設は、全国・世界からの支援への感謝を伝える場所であるとともに、南三陸町民の震災の記憶と体験を通して「自然とは、人間とは、生きるとは」を五感で感じ、学びあい、思考する防災の学びの場である震災伝承施設「南三陸311メモリアル」や、地域全体の活性化に繋がる情報や観光情報の発信、地域交流の場である観光交流施設、BRT、高速バス、町内乗合バスを集約した公共交通ターミナル施設の3つの機能を併せ持ち、既に先行してオープンしていた「南三陸さんさん商店街」と一体となった道の駅となっております。

志津川湾ラムサール条約湿地登録

自然環境の保全と利活用を推進している町であることを国内外に発信し、ひいては交流人口拡大・地方創生へ寄与することが期待できることから、ラムサール条約湿地登録に向けて取組んできた結果、平成30年10月18日に登録されました。



南三陸町「志津川湾」

志津川湾内は、190種以上の海草と海藻以外にも500種以上の海洋生物の餌場や生息地となっており、生物の多様性を支えています。また、藻場を餌場とする絶滅危惧Ⅱ類のコクガンの重要な越冬地となっております。

世界初！国際認証ダブル取得

東日本大震災からの復興計画において、自然と調和したまちづくりを行うこととし、エコタウンへの挑戦を掲げ、バイオマス産業都市構想や町内の資源を生かしたまちづくりを進めてきました。平成27年度に森林国際認証(FSC)を取得し、平成28年度にはカキ養殖で水産養殖国際認証(ASC)を取得いたしました。

今後は、環境に配慮した生産活動を行うなど、森と海の両面から、南三陸ブランドを一層輝かせてまいります。



森林国際認証(FSC)



水産養殖国際認証(ASC)

～感謝～

東日本大震災を機にいただいた全国、そして世界中の皆様からの励まし、手厚いご支援に対し心より深く感謝申し上げます。

第1編

組合概要

組合組織図 — 9

消防本部概要 —10

リアス・アーク美術館概要 —13

消防本部・消防署所の概要



気仙沼市赤岩五駄鱈 43-2

敷地面積: 6,225 ㎡
建物構造: 鉄筋コンクリート造3階建
面積: 建 1,700.3 ㎡ / 延 2,981.4 ㎡
職員数: 本部 35 名 / 署 40 名

キャッチフレーズ

「新たな防災力は、住民の安全と
安心な暮らしのために」

消防本部・気仙沼消防署



気仙沼市本吉町津谷松尾 1-1

敷地面積: 700.8 ㎡
建物構造: 鉄筋コンクリート造 2 階建
面積: 建 208.3 ㎡ / 延 314.5 ㎡
職員数: 20 名

キャッチフレーズ

「信頼と 笑顔に繋げる
防災の輪」

気仙沼消防署本吉分署





気仙沼消防署古町出張所

気仙沼市古町 1-6-17

敷地面積:1,145.67㎡

建物構造:鉄筋コンクリート造 2階建

面積:建 309.5㎡/延 580.5㎡

職員数:18名

キャッチフレーズ

「守ります 皆さんと一緒に この街を」



気仙沼消防署大島出張所

気仙沼市廻館 113-1

敷地面積:429.4㎡

建物構造:軽量鉄骨造一部木造平屋建

面積:建 153.7㎡/延 150.9㎡

職員数:16名

キャッチフレーズ

「安全安心と 美しい景色を守る 架け橋に」



気仙沼消防署唐桑出張所

気仙沼市唐桑町只越 346-13

敷地面積:2,642.5㎡

建物構造:鉄筋コンクリート造平屋建

面積:建 451.5㎡/延 425.3㎡

職員数:15名

キャッチフレーズ

「未来へと ここに誓う 火の用心」





南三陸町志津川字新井田 34-4

敷地面積:6,940.1 m²
 建物構造:鉄筋コンクリート造平屋建
 面積:建 934.9 m²/延 930.0 m²
 職員数:31 名

キャッチフレーズ
 「みんなで築こう！
 災害に負けない 地域の絆」

南三陸消防署



南三陸町歌津字柘沢 28-1

敷地面積:1,685.0 m²
 建物構造:鉄筋コンクリート造平屋建
 面積:建 461.0 m²/延 433.8 m²
 職員数:15 名

キャッチフレーズ
 「安心と 希望を創る
 この赤灯^{あかり}」

南三陸消防署歌津出張所





館名とロゴマーク

「リアス」は三陸沿岸部の海岸地形を表す地理用語《リアス海岸》の「リアス」、「アーク」は「方舟」を意味します。時代の流れ、変化の中にある圏域の文化資源を《地域の記憶＝無二の財産》として調査研究、収集し伝承する当館の使命を象徴しています。

ロゴマークは、三陸の豊かな海の象徴である青を基調に、波状部分は複雑に入り組んだリアス海岸線と荒波を、白い形状は方舟を表しています。また、全体の形状がパレット(美術の象徴)を表しています。



外観一屋上ピンクのシンボルタワーは遠くからでも視認できる。見晴らしの良い丘陵地にある。

リアス・アーク美術館概要

RIAS ARK MUSEUM OF ART since 1994

リアス・アーク美術館は、宮城県が県土の均衡ある発展をはかるため、「広域圏活性化プロジェクト事業」を創設し、気仙沼・本吉広域圏の「地域文化創造プロジェクト事業」の中核施設として、宮城県が施設の整備を行い、管理運営を気仙沼・本吉地域広域行政事務組合が行っています。

1994年(平成6)年10月25日開館。所在地は気仙沼市の市街地から南西2.5kmの位置にあり、気仙沼湾を見下ろす丘陵地帯の一角に位置しています。

当館は「圏域住民への質の高い芸術文化に触れる機会の提供」と「住民の創作活動や発表の場の提供」を通じ、美術的な視点から個性豊かな圏域文化を創造しようとする生涯学習施設です。東北・

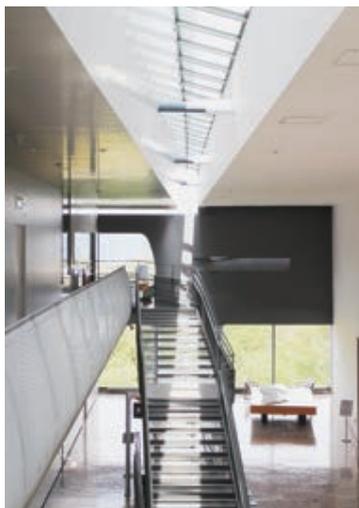
北海道を一つのエリアと捉え、美術をはじめとする芸術文化を継続的に調査、研究することを基本方針とし、常設・企画事業を展開しています。

施設内容は圏域に内在する文化資源を発掘し“食”を軸として公開する「方舟日記」及び当館所縁の作家を中心に紹介する「収蔵美術作品展」を常設展示するアークギャラリー、「東日本大震災の記録と津波の災害史」と題し記録資料等を常設展示する企画展示室、当館企画展・巡回展・圏域住民の創作活動の発表等を行う圏域ギャラリー、住民の創作活動を支援するワークショップ、そして当館オリジナルソフトや視聴覚映像の上映、各種パフォーマンスの発表会場として使用するハイビジョンギャラリーなどの複合的機能からなっています。

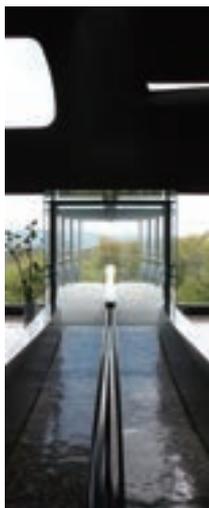
建設概要

当館の設計には、早稲田大学理工学部建築学科、石山修武研究室があたりました。鉄骨・アルミ合金パネル・鉄板・コンクリート・漆喰などを用い、造船技術を取り入れるなど、総3階建てに屋上庭園を有したユニークな建築です。平成7年度日本建築学会賞を受賞しています。

建築主 宮城県
管理運営 気仙沼・本吉地域広域行政事務組合(教育委員会)
設計 建築:早稲田大学理工学部建築学科 石山修武研究室
構造:梅沢建築研究所/設備:郷設計研究所/
家具:藤江和子アトリエ
規模 敷地面積:9,986.86㎡/建築面積:2,340.02㎡/延床面積:4,601.22㎡(1F:1,598.75㎡/2F:1,997.09㎡/3F:967.88㎡/別棟:37.50㎡)/階数:地上3階
構造 鉄骨造・鉄筋コンクリート造
登録博物館 収集資料-美術・民俗・歴史・震災/学芸員3名



エントランスホール



展望台とアプローチ



東側外観 展望台が建物から突き出ています。



展覧会事業・教育普及事業概要

当館のシリーズ企画に「N.E.blood 21」があります。本展は東北・北海道在住若手作家を全国的に紹介し、作家活動の土壌づくり、ネットワーク形成を目的としています。これまでに およそ 80名の作家を紹介してきました。作家の皆さんは現在、各方面で大活躍されています。

また、毎年度継続している企画として「方舟祭(はこぶねさい)」があります。本展は市民参加型文化祭で、参加者による絵画・写真・手工芸等の各種展示を無料で行います。リアス・ジュニア絵画コンクールは、開館以来継続開催した「みんなの展覧会をつくろう」展を後継する圏域内小学生を対象とした公募絵画展で、応募作品すべてを展示し秀作を表彰しています。

さらに、隔年で開催している企画として、地域の食文化や生活文化を紹介する「食と地域の暮らし展」や、変わりゆく東北・北海道の風景を描いた絵画公募展「LANDSCAPE of N.E.」を継続的に実施しています。

展覧会事業を行う一方で、教育普及活動にも力を入れ、ワークショップでの通常創作活動や公開ゼミナールを始め、講演会や出前授業、講師派遣などのアウトリーチ活動にも注力しています。

近年は YouTube や Twitter、Instagram などの SNS による情報発信を積極的に導入し、幅広く宣伝・普及を図っています。

主な展示室および展示概要

アークギャラリー＜常設展示＞ [Ark gallery]

常設①収蔵美術作品展示

当館所縁の東北・北海道、当地域出身・在住作家の多様な作品(絵画・彫刻・工芸・現代美術など)約70点を展示・紹介しています。



常設②歴史民俗資料展示

「方舟日記—海と山を生きるリアスなくらしー」

歴史・民俗資料をもとに、手書きイラストや写真などを交え、「食」をキーワードにリアス地域の文化を紹介しています。縄文時代から現代までの漁撈を中心とする歴史や様々な習俗、生活文化を焦点としています。

方舟漂流記では、身近なイベント、年中行事などのルーツや豆知識を紹介するミニ展示を定期的に開催しています。



企画展示室 ＜常設展示＞ [Exhibition room]

常設③災害展示

「東日本大震災の記録と津波の災害史」

東日本大震災発生直後から2年間にわたる圏域沿岸の被害記録調査活動で得た資料を平成25年より常設展として展示公開しています。

本展では写真や被災物とともに、三陸地方における過去の津波災害の資料も展示し、津波災害に関する知見を深め、津波と地域文化の関係、海とともに生きる地域の未来を考える場としています。



圏域ギャラリー [Community gallery]

企画展覧会・共催展など

当館の自主企画展、共催展など、大型の展覧会を開催する会場です。移動壁の構成によって会場のレイアウトが変わります。

天井が6～7mと高く開放的で、湾曲した天井のディテールと漆喰・エキスパンドメタルの2種の対照的な壁が印象的な展示室です。



第2編

あゆみ

第1章

広域 50 年のあゆみ -17

第2章

組合行政のあゆみ -33

第1章 広域 50 年のあゆみ

凡例 ■事務局 ■消防 ■美術館 ■災害・事故

昭和 46 年(1971)

- 7月 ■宮城県知事から広域市町村圏の指定を受ける
- 8月 ■気仙沼・本吉地域広域行政事務組合設立



昭和 46 年 4 月 宮城県知事から設立許可

昭和 47 年(1972)

- 2月 ■広域市町村圏計画の策定(基本構想・基本計画)
- 3月 ■組合同規約一部変更の許可(共同処理事務の変更)
- 4月 ■気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部発足
- 広域消防職員として前気仙沼市消防本部職員 55 人を任用、18 人新規採用(消防職員定数 155 人)
- 消防常備化市町村の指定(郡内 5 町)を受ける
- 12月 ■広域消防の業務開始(1 本部、2 消防署、1 分署、4 出張所)
- 志津川消防署庁舎落成
- 志津川消防署津山出張所庁舎落成



昭和 47 年 4 月 広域消防スタート
【三陸新報社 提供】

昭和 48 年(1973)

- 1月 ■気仙沼消防署本吉分署庁舎落成
- 志津川消防署歌津出張所庁舎落成
- 気仙沼消防署唐桑出張所庁舎落成
- 3月 ■(財)日本自動車工業会から救急自動車の寄贈を受け、気仙沼消防署に配置



昭和 48 年 3 月 救急自動車



昭和 49 年 4 月 消防艇あさぎり

昭和 49 年(1974)

- 3月 ■気仙沼消防署「望楼」勤務を廃止(昭和 12 年建設、昭和 60 年撤去)
- 4月 ■気仙沼消防署臨港出張所落成
- 消防艇「あさぎり」配置
- 7月 ■第1回消防職員技術大会実施(以降毎年実施)



昭和 49 年 7 月 消防職員技術大会

昭和 50 年(1975)

- 3 月 ■ 公平委員会の事務を宮城県人事委員会に委託
- 11 月 ■ 「第 8 なか丸」歌津沖で転覆事故
気仙沼港に曳航、人命捜索救助活動を行う



昭和 52 年 2 月 消防音楽隊

昭和 51 年(1976)

- 6 月 ■ 消防本部庁舎増築落成
- 12 月 ■ 気仙沼市大島地区に駐在員 2 人を派遣(公民館にて勤務)



昭和 52 年 3 月 救助工作車

昭和 52 年(1977)

- 2 月 ■ 消防音楽隊を結成(隊員 25 人)
- 3 月 ■ 気仙沼信用金庫から救助工作車の寄贈を受け、気仙沼消防署に配置

昭和 53 年(1978)

- 4 月 ■ 消防本部と志津川消防署の消防救急通信指令装置が完成
- 6 月 ■ 宮城県沖地震
- 11 月 ■ 組合同規約一部変更の許可(理事会制に移行)
- 12 月 ■ 広域行政事務組合が管理者制から理事会制に移行



昭和 53 年 6 月 宮城県沖地震
【三陸新報社 提供】

昭和 54 年(1979)

- 3 月 ■ 本吉町で同時大規模林野火災発生(12ha・5ha)
管内消防団、登米広域消防本部(現:登米市消防本部)及び両
磐広域消防本部(現:一関市消防本部)の応援を受ける
- 4 月 ■ 気仙沼消防署大島出張所庁舎落成
- 7 月 ■ 新広域市町村圏計画委員会を設置



昭和 54 年 12 月 屈折梯子車

- 12月 ■組合職員互助会を発足
- 気仙沼消防署に屈折梯子車を配置

昭和 55 年(1980)

- 3月 ■志津川消防署の消防職員待機宿舍落成

昭和 56 年(1981)

- 8月 ■気仙沼・本吉地区婦人防火クラブ連合会結成

昭和 57 年(1982)

- 2月 ■唐桑出張所の消防職員待機宿舍落成
- 4月 ■気仙沼市魚市場に係留中の「第 11 豊洋号」(ブンヤン号)においてアンモニアガス噴出事故発生(死者 8 人、負傷者 6 人)
この救助活動の功績に対し、下記のとおり授与された
 - ・内閣総理大臣から「防災功労章」
 - ・消防庁長官から「功績章」
 - ・宮城県知事から「顕彰状」
 - ・(財)日本消防協会長から「現場功労章」
 - ・(財)宮城県消防協会長から「功労章」
- 12月 ■気仙沼消防署に照明電源車を配置



昭和 57 年 4 月 ブンヤン号
アンモニアガス噴出事故
【河北新報社 提供】



昭和 57 年 12 月 照明電源車

昭和 58 年(1983)

- 3月 ■本吉分署の消防職員待機宿舍落成
- 12月 ■地域経済活性化推進地域に指定

昭和 59 年(1984)

- 3月 ■地域経済活性化計画を策定



昭和 59 年 7 月 広域市町村圏計画
(後期基本計画)策定
【三陸新報社 提供】

- 7月 ■ 広域市町村圏計画(後期基本計画)を策定
- 8月 ■ 行政改革大綱を決定

昭和 60 年(1985)

- 2月 ■ 異常気象(厳冬による消防水利確保困難)のため「火災警報」を発令
- 8月 ■ (財)日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車の寄贈を受け、気仙沼消防署に配置
- 11月 ■ 第1回「火災予防キャンペーン」実施(平成11年度まで実施)
- 12月 ■ 国道45号線安波山トンネル開通に伴う関係機関合同総合訓練(以降隔年実施)



昭和 60 年 11 月 火災予防キャンペーン



昭和 60 年 12 月 安波山トンネル
総合訓練

昭和 61 年(1986)

- 1月 ■ 消防出初式に「梯子乗り」登場
- 8月 ■ 台風10号くずれの低気圧により宮城県全域で大雨洪水による被害多発

昭和 62 年(1987)

- 1月 ■ 「広域行政検討委員会」を発足
- 3月 ■ “まちづくり産業おこし”講演と交流の集い(~3/10)
■ 「火災警報」を発令
- 11月 ■ 「119 番の日」制定
- 12月 ■ 行財政総合診断



昭和 61 年 1 月 消防出初式に
「梯子乗り」登場

昭和 63 年(1988)

- 2月 ■ 広域行政検討委員会「中間報告」
- 3月 ■ 広域観光活性化セミナー開催
- 11月 ■ 広域行政検討委員会「中間報告」



昭和 61 年 8 月 宮城県全域で大雨洪水

平成元年(1989)

- 2月 ■ 地域産業活性化フォーラムを開催
- 3月 ■ 新地域経済活性化推進地域決定通知(第2次)
- 11月 ■ 組合功労者待遇条例施行

平成2年(1990)

- 3月 ■ 消防訓練塔落成
- 7月 ■ 第15回宮城県消防救助技術指導会を気仙沼市で開催
 - 広域圏活性化プロジェクト選定
- 11月 ■ 気仙沼・本吉地域広域圏シンボル・マーク(紋章)制定



平成2年3月 消防訓練塔落成
【三陸新報社 提供】



平成2年11月 広域シンボル・マーク

平成3年(1991)

- 2月 ■ 消防本部に人員輸送車配置
 - 第三次気仙沼・本吉地域広域市町村圏計画策定
- 8月 ■ 広域文化施設運営準備室設置
- 10月 ■ 宮城県防災航空隊に職員1名派遣(以降継続派遣)



【三陸新報社 提供】

平成4年(1992)

- 3月 ■ 岩手県東磐井郡室根村地内(現:一関市室根町)の大川にタンクローリー横転
 - 重油流出により「大川油流出事故対策本部」を設置、消防職・団員及び自衛隊(第22普通科連隊)が災害復旧活動に従事(4月14日対策本部解散)
- 9月 ■ ふるさと市町村圏に選定
- 10月 ■ 「広域組合設立・広域消防発足20周年記念式典」を開催
 - 浅野大三郎消防庁長官が記念講演
- 11月 ■ 広域文化施設新築工事安全祈願祭



平成4年3月 岩手県東磐井郡室根村地内の大川に重油流出

平成 5 年(1993)

- 2 月 ■ 組合規約変更許可(ふるさと市町村圏計画の策定及び同計画に掲げる広域にわたる事業の実施)
- 4 月 ■ 津山町で大規模林野火災発生(10ha 焼失)
管内消防団の応援を受ける
- 10 月 ■ 消防本部・気仙沼消防署・広域防災センター新庁舎落成
- 11 月 ■ 組合規約の変更許可(広域防災センター、及び教育機関の設置及び管理運営に関する事)



平成 6 年 1 月 南出張所廃止
【三陸新報社 提供】

平成 6 年(1994)

- 1 月 ■ 気仙沼消防署南出張所廃止
- 2 月 ■ 広域組合事務局新庁舎で業務開始
- 消防本部・気仙沼消防署新庁舎で業務開始
- 消防緊急通信指令施設開通式(119 番統合)
2 月 28 日消防緊急通信指令施設(Ⅱ型)完成
- 気仙沼消防署南町出張所業務開始(臨港出張所併合)
職員 8 人配置
- 第 89 回組合議会(定例会)で、「リアス・アーク美術館条例」等議決
- 3 月 ■ リアス・アーク美術館 建築工事検査(宮城県)
- 第 90 回組合議会(臨時会)で、組合教育委員会委員の同意(5 人)
- 消防本部・気仙沼消防署・広域防災センター新庁舎落成式
- 気仙沼消防署に高規格救急自動車配置
- 4 月 ■ 「気仙沼・本吉広域防災センター」オープン
- 県有財産使用貸借契約締結並びに施設の引き渡し
- 組合教育委員会の設置、リアス・アーク美術館条例施行
- 組合教育委員の任命並びに第 1 回組合教育委員会
- リアス・アーク美術館職員の任命、発令
- 5 月 ■ 救急救命士国家試験 1 名合格(以降毎年度養成)



平成 6 年 2 月 新庁舎業務開始
【河北新報社 提供】



平成 6 年 1 月 建設作業が進む美術館



平成 6 年 10 月 美術館落成式典

- 7月 ■ リアス・アーク美術館館長発令
■ 地域経済基盤強化対策推進地域に選定
- 9月 ■ (財)日本損害保険協会から救助工作車の寄贈を受け、気仙沼消防署に配置
- 10月 ■ リアス・アーク美術館落成式典
■ リアス・アーク美術館オープン
■ リアス・アーク美術館開館記念「境界の風景」展



平成6年10月 美術館開館テープカット



平成6年10月 開館記念「境界の風景」展

平成7年(1995)

- 2月 ■ 地震・津波災害警防計画を策定
■ リアス・アーク美術館ワークショップオープン
- 3月 ■ リアス・アーク美術館入館者 10,000 人達成
- 5月 ■ 旅客船「くろさき」岸壁衝突事故(負傷者 141 人)
- 7月 ■ リアス・アーク美術館収蔵品購入基金条例施行
- 8月 ■ 当消防本部が緊急消防援助隊救急部隊に登録
- 10月 ■ リアス・アーク美術館1周年記念式典
- 11月 ■ 第1回「みんなの展覧会をつくろう」展



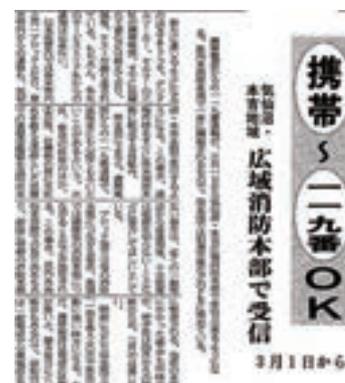
平成7年5月 くろさき岸壁衝突事故
【河北新報社 提供】

平成8年(1996)

- 9月 ■ リアス・アーク美術館入館者 50,000 人達成
- 12月 ■ 第1回消防職員委員会開催(以降毎年開催)

平成9年(1997)

- 2月 ■ 気仙沼消防署の消防職員待機宿舍移転落成
■ 気仙沼消防署臨港出張所廃止
- 7月 ■ 新地域経済基盤強化対策地域に選定



平成10年3月 携帯119番受付業務を開始
【三陸新報社 提供】

平成 10 年(1998)

- 2 月 ■ 広域防災センター入館者 50,000 人達成
- 3 月 ■ 自動車電話・携帯電話 119 番受付業務を開始
 - 気仙沼消防署に小型動力ポンプ付水槽車を配置
- 12 月 ■ 気仙沼消防署大島出張所に初の救急自動車(2B型)配置



平成 10 年 3 月 小型動力ポンプ付水槽車

平成 11 年(1999)

- 8 月 ■ リアス・アーク美術館入館者 100,000 人達成



平成 12 年 3 月 歌津出張所新庁舎落成

平成 12 年(2000)

- 1 月 ■ 開館5周年記念特別展「藻の記憶-海の紙をめぐる4人の表現-」展
- 3 月 ■ 高速消防救急艇「あさぎり」就航(19t)
 - 志津川消防署歌津出張所新庁舎落成
- 4 月 ■ ワークショップ公開ゼミナール「アブラゼミ」開催
- 6 月 ■ 新地域経済基盤強化対策地域に選定(期間3年)
- 7 月 ■ 宮城県博物館登録(博物館相当施設に認定)



平成 12 年 3 月 高速消防救急艇あさぎり



平成 12 年 1 月 展覧会広報物

平成 13 年(2001)

- 3 月 ■ 第4次気仙沼・本吉地域広域市町村圏計画策定
- 4 月 ■ 広域消防水難救助隊発足(潜水士資格者 18 名)
 - リアス・アーク美術館常設展リニューアルオープン
- 8 月 ■ 広域組合設立30周年
- 9 月 ■ 「宮城県沖地震長期評価」の発表に伴い、地震・津波対策検討委員会の設置



アブラゼミの様子(画像は 2019 年)

平成 14 年(2002)

- 5 月 ■ 東北在住若手作家紹介シリーズ企画 N.E.blood 21 始動
Vol.1「岡田卓也」展を開催
- 県有財産無償譲与に係る検討委員会設置
- 10 月 ■ 高速消防救急艇あさぎり大島係留開始
- 組合設立及び広域消防発足 30 周年記念式典



平成 14 年 5 月 岡田卓也展開催

平成 15 年(2003)

- 3 月 ■ 気仙沼地域メディカルコントロール協議会を設立
- 5 月 ■ 広域防災センター入館者 100,000 人達成
- 6 月 ■ 地震・津波災害活動計画を策定
- 7 月 ■ 気仙沼・本吉地域広域行政等検討委員会設置
- 宮城県北部連続地震
7 月 28 日から 2 日間、延べ人員 6 名を鹿島台町に派遣し、
水槽車による応援活動を行った
この応援活動に対し、消防庁長官から「功労章」が授与された
- 10 月 ■ 地震津波安全対策担当を配置
- 11 月 ■ リアス・アーク美術館入館者 200,000 人達成
- 美術館文化祭「方舟祭 2003」
- 地域経済活性化対策推進地域に選定(3年間)



平成 15 年 11 月 方舟祭広報物



方舟祭の様子＝フラダンスの発表
(画像は 2016 年)

平成 16 年(2004)

- 5 月 ■ リアス・アーク美術館譲与契約締結
- 6 月 ■ リアス・アーク美術館引き渡し、引き受け式
- 9 月 ■ 「リアス・アーク美術館開館10周年記念」展
-美術館とは何か？ 本来あるべき姿とは？-



平成 16 年 9 月 開館 10 周年記念展

平成 17 年(2005)

- 2 月 ■当消防本部初の「気管挿管認定」救急救命士誕生
- 3 月 ■津山町が組合を脱退し、1 市 4 町で組合再編(4 月 1 日)
登米市への身分移管に伴う職員 10 名退職
■広域市町村合併に伴う志津川消防署津山出張所の消防業務
事務引継及び閉庁式を実施
- 4 月 ■津山町が組合を脱退し、1 市 4 町で組合再編
■組合規約変更(施行)
- 8 月 ■8.16 宮城県沖地震
管内で震度5弱を観測
- 10 月 ■志津川町・歌津町が合併し「南三陸町」となり、1市3町で組合
再編
■組合規約変更(施行)
■志津川消防署から南三陸消防署へ名称変更



平成 17 年 3 月 津山町が組合を脱退
【三陸新報社 提供】

平成 18 年(2006)

- 3 月 ■気仙沼消防署に災害対応特殊はしご付消防ポンプ自動車配
置
■気仙沼市・唐桑町が合併し「気仙沼市」となり、1 市 2 町で組
合再編
■組合規約変更(施行)
■広域活動計画(暫定)策定(平成18年度～平成22年度)
- 9 月 ■リアス・アーク美術館入館者 300,000 人達成
■特定地域活性化対策推進地域に選定
■気仙沼湾に係留中のカツオ船(FRP製)から火災が発生
約 11 時間にわたる消火活動が行われた
- 10 月 ■当消防本部初の「薬剤(エピネフリン)投与の実施に係る認
定」救急救命士誕生
- 12 月 ■組合規約変更(施行)
■気仙沼消防署に水難救助車を配置



平成 17 年 6 月 どうのババールの世界展



平成 18 年 9 月 カツオ船から火災
【三陸新報社 提供】

平成 19 年(2007)

- 1 月 ■ 組合同規約変更(施行)
- 3 月 ■ 宮城県防潮水門遠隔操作システムの操作装置が南三陸消防署に設置され運用開始
■ 広域活動計画(改訂)策定(平成18年度～平成22年度)
- 4 月 ■ 初の女性消防吏員採用
- 5 月 ■ 国土交通省主催による平成 19 年度大規模津波防災総合訓練が気仙沼市をメイン会場に実施された
- 7 月 ■ 「奥の若手道-N.E.blood21」展-東北・北海道の明日-
- 9 月 ■ リアス・アーク美術館常設展拡大企画「食と地域の暮らし」展



平成 19 年 5 月 大規模津波防災総合訓練
【三陸新報社 提供】

平成 20 年(2008)

- 2 月 ■ 毎年 4 月 15 日から 5 月 14 日までを行楽期の火災予防月間とした
- 6 月 ■ 平成 20 年岩手・宮城内陸地震
宮城県広域消防相互応援協定に基づく応援要請により、6 月 15 日から 6 月 23 日まで 9 日間、延べ人員 63 名を栗原市に派遣



平成 20 年 6 月 岩手・宮城内陸地震
【河北新報社 提供】

平成 21 年(2009)

- 4 月 ■ 「LANDSCAPE of N.E. ～東北・北海道の風景～」公募展
- 9 月 ■ 気仙沼市・本吉町が合併し「気仙沼市」となり、1 市 1 町で組合再編
■ 組合同規約変更(施行)
理事会制から管理者制へ移行
- 11 月 ■ リアス・アーク美術館入館者 400,000 人達成



平成 21 年 9 月 管理者制移行
【三陸新報社 提供】

平成 22 年(2010)

- 6 月 ■ 広域防災センター入館者 150,000 人達成

- 12月 ■ 気仙沼消防署に災害対応特殊化学消防ポンプ自動車Ⅱ型を配置
- 広域活動計画策定(平成23年度～平成27年度)



平成 23 年 3 月 東日本大震災
【三陸新報社 提供】

平成 23 年(2011)

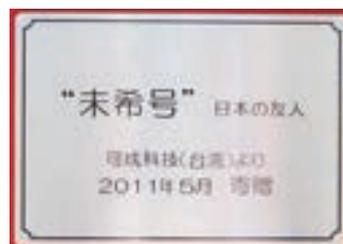
- 1月 ■ 組合格約変更(施行)
- 3月 ■ 東北地方太平洋沖地震
 - 管内で震度 6 弱を観測 マグニチュード 9.0
 - 国内観測史上最大級の地震 名称は「東日本大震災」
 - 消防職員 10 名殉職
 - 庁舎被害:津波により全壊(南三陸消防署・歌津出張所)・全損(南町出張所)
 - 地震による庁舎敷地地盤の沈下・擁壁亀裂(唐桑出張所)
 - 車両等被害:火災及び津波により被災(消防艇 1 艇・指揮車 2 台・資機材搬送車 1 台)
 - 緊急消防援助隊応援部隊数:1,141 部隊、4,317 名
 - 同年、11 月 9 日には、東日本大震災の活動に従事した功績に対し「総理大臣表彰」を受賞
 - 地震による建物の一部損壊によりリアス・アーク美術館休館
- 9月 ■ 東日本大震災 組合消防職員殉職者合同慰霊祭を実施



平成 23 年 9 月 東日本大震災
組合消防職員殉職者合同慰霊祭

平成 24 年(2012)

- 2月 ■ 台湾 洪氏から消防ポンプ自動車(CD-I 型)の寄贈を受け、南三陸消防署に配置
- 3月 ■ 広域活動計画(改訂版)策定(平成23年度～平成27年度)
- 7月 ■ リアス・アーク美術館一部開館(H24.6.30 補修工事完了)
- 9月 ■ 東日本大震災の活動に従事した功績に対し「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞



平成 24 年 2 月 消防ポンプ自動車

平成 25 年(2013)

- 2 月 ■ 全国共済農業協同組合連合会から高規格救急車の寄贈を受け、本吉分署に配置
- 3 月 ■ 消防救急艇「あさぎり」就航
■ 前田道路株式会社から消防ポンプ自動車(CD-1 型)の寄贈を受け、気仙沼消防署南町出張所に配置
- 4 月 ■ 消防指令センター及び消防救急デジタル・アナログ無線施設運用開始
■ リアス・アーク美術館全部開館
■ リアス・アーク美術館常設展「東日本大震災の記録と津波の災害史」新設
- 9 月 ■ リアス・アーク美術館入館者 500,000 人達成



平成 25 年 3 月 消防救急艇あさぎり



平成 26 年 3 月 消防誓いの日

平成 26 年(2014)

- 3 月 ■ 東日本大震災での教訓を後世に伝え、今後殉職事故を発生させないことを職員全員が誓い、確認する日として「消防誓いの日」を制定
■ 東日本大震災消防職員殉職者慰霊碑・伝承碑建立式(職員互助会事業)
■ 気仙沼消防署に救助工作車(Ⅱ型)を配置
- 7 月 ■ 気仙沼消防署古町出張所新庁舎落成式(8 月 1 日より業務開始)
■ 気仙沼消防署南町出張所から気仙沼消防署古町出張所へ名称変更
- 9 月 ■ リアス・アーク美術館開館 20 周年記念式典
■ リアス・アーク美術館開館 20 周年記念展「震災と表現<BOX ART>~共有するためのメタファー~」展
- 10 月 ■ リアス・アーク美術館開館 20 周年



平成 26 年 3 月 東日本大震災消防職員殉職者慰霊碑・伝承碑建立式
【三陸新報社 提供】

平成 27 年(2015)

- 1 月 ■ リアス・アーク美術館が「平成 26 年度地域創造大賞(総務大臣賞)」を受賞



平成 27 年 1 月 地域創造大賞受賞

■気仙沼ライオンズクラブから広報車の寄贈を受け、唐桑出張所及び歌津出張所に配置

7月 ■宮城県メディカルコントロール協議会より救急救命士が当消防本部初となる処置拡大の認定を受け運用を開始

■リアス・アーク美術館入館者 600,000 人達成



平成 28 年 6 月
アート・ドキュメンテーション学会推進賞受賞

平成 28 年(2016)

3月 ■広域活動計画策定(平成28年度～平成32年度)

6月 ■リアス・アーク美術館が「アート・ドキュメンテーション学会推進賞」を受賞

■気仙沼消防署唐桑出張所新庁舎落成式(6月1日より業務開始)

8月 ■当消防本部に双子のイメージキャラクター「かなえ」ちゃん、「みなみ」ちゃんが誕生

■台風 10 号に伴う大雨災害により広域消防初の緊急消防援助隊が出動

8月31日から9月9日の10日間、延べ5隊(救助小隊・消火小隊)25名を岩手県岩泉町に派遣

翌年2月28日、消防庁長官より賞状が授与された

9月 ■「新! 方舟祭 2016」

12月 ■第1回「リアス・ジュニア絵画コンクール」展

かなえちゃん みなみちゃん



気仙沼・本吉消防本部
女性消防吏員活躍推進

平成 28 年 8 月 イメージキャラクター



平成 28 年 8 月 緊急消防援助隊が出動

平成 29 年(2017)

1月 ■平成 28 年の火災件数が広域消防発足以降、最小件数を更新(16 件)

4月 ■南三陸消防署歌津出張所新庁舎落成式(5月1日より業務開始)

9月 ■リアス・アーク美術館入館者 700,000 人達成



平成 28 年 12 月 リアス・ジュニア
絵画コンクール展

平成 30 年(2018)

9月 ■北海道胆振東部地震により緊急消防援助隊が出動

9月6日から9月11日の6日間、救助小隊・後方支援隊7名を北海道勇払郡厚真町に派遣

翌年2月5日、消防庁長官より賞状が授与された



平成 30 年 9 月 北海道胆振東部地震
【三陸新報社 提供】

平成 31 年・令和元年(2019)

- 2月 ■宮城県博物館登録(登録博物館に認定)
- 9月 ■南三陸消防署新庁舎落成式(8月8日より業務開始)
- 10月 ■台風第19号被害に係る宮城県広域消防相互応援協定に基づく応援要請により出動 10月13~17日、21日の6日間、延べ8隊(消火小隊・救急小隊)28名を丸森町に派遣
■リアス・アーク美術館入館者 800,000人達成
- 12月 ■全国美術館会議学芸員研修会企画開催



令和2年5月 岩沼市倉庫火災

令和2年(2020)

- 1月 ■消防本部に人員輸送車を更新配置
■新型コロナウイルス感染症に係る予防・まん延防止対策実施
- 4月 ■新型コロナウイルス感染拡大防止の為、リアス・アーク美術館を臨時休館(令和2年5月10日まで)
- 5月 ■岩沼市倉庫火災に係る宮城県広域消防相互応援協定に基づく応援要請により出動 5月1日から5月2日の2日間、延べ2隊(梯子車隊)8名を岩沼市に派遣
- 11月 ■広域防災センター入館者 200,000人達成



令和2年11月 入館者20万人達成
【三陸新報社 提供】

令和3年(2021)

- 3月 ■広域活動計画策定(令和3年度~令和7年度)
- 7月 ■東京2020オリンピック競技大会宮城スタジアム開催消防特別警戒に伴い、消火小隊5名を利府町に派遣
- 8月 ■リアス・アーク美術館教育普及活動の記録展「ワークショップの軌跡」開催



令和3年8月 ワークショップの軌跡展
YouTubeによる展覧会紹介動画配信

令和4年(2022)

- 2月 ■東日本大震災発生10年特別企画展「あの時、現在~そしてこれから」展 開催



令和4年2月 震災10年特別展

IMAGE CHARACTER

消防庁の「女性消防吏員の活躍推進」の取り組みとして、平成 28 年 8 月、イメージキャラクター【かなえちゃん・みなみちゃん】を作成しました。デザインは当消防本部の女性消防吏員が担当。気仙沼市と南三陸町の地名や特産物をモチーフとした双子の女性消防吏員です。

消防の職場では全国的に女性消防吏員の割合は非常に少ないため、女性からも消防がより身近な存在として親しまれるきっかけとなるよう女性キャラクターが誕生しました。当消防本部のイメージキャラクターとして積極的に刊行物・行事等に活用し、住民に親しまれる消防を目指します！



夏制服 ver.



レスキュー ver.

それぞれ前髪に「サメ」と「タコ」の髪留めがあるよ！



活動服 ver.



救急 ver.

かなえちゃん

誕生日●3月 29 日
階級●消防士

気仙沼湾(甞が浦)の港をイメージした元気で活気あふれる女性。髪型は三つの岬を表し、消防の三要素を大事にしている。希望をもって夢を叶え(かなえ)のためにチャレンジ旺盛な努力型の女性消防職員。

みなみちゃん

誕生日●3月 29 日
階級●消防士

名の由来は南三陸町の“南”。美しい三陸地方の海の波のような明るく爽やかな女性消防職員。髪型はリアス海岸の海岸線をイメージ。南方を守護する「朱雀」の朱は消防のカラーである赤であり、南方の色とされている。

KANAE & MINAMI

KANAE—Kesennuma (Kanaegaura)
MINAMI—Minamisanriku



防火衣 ver.

いとこの“はっぴいちゃん”



気仙沼婦人防火クラブのキャラクターとして活躍中です！



防火衣 スペシャル ver.



救急“マスク” ver.

Social Distance for Covid19

第2章 組合行政のあゆみ

※敬称略

歴代「管理者・理事長」

在任期間	氏名	備考
昭和46年8月 ～昭和48年6月	廣野 善兵衛	気仙沼市長
昭和48年7月 ～昭和53年11月	菅原 雅	気仙沼市長
管理者制から理事長制へ		
昭和53年12月 ～平成5年6月	菅原 雅	気仙沼市長
平成5年7月 ～平成9年6月	小野寺 信雄	気仙沼市長
平成9年7月 ～平成21年8月	鈴木 昇	気仙沼市長
理事長制から管理者制へ		
平成21年9月 ～平成22年4月	鈴木 昇	気仙沼市長
平成22年4月 ～在任中	菅原 茂	気仙沼市長

歴代「副管理者・副理事長」

在任期間	氏名	備考
昭和46年8月 ～昭和53年11月	勝倉 三九郎	志津川町長
副管理者制から副理事長制へ		
昭和53年12月 ～平成2年3月	勝倉 三九郎	志津川町長
平成2年4月 ～平成14年3月	阿部 公三	志津川町長
平成14年4月 ～平成14年12月	阿部 東一郎	津山町長
平成14年12月 ～平成17年9月	牧野 駿	歌津町長
平成17年11月 ～平成18年3月	佐藤 和則	唐桑町長

平成18年3月 ～平成21年8月	佐藤 仁	南三陸町長
副理事長制から副管理者制へ		
平成21年9月 ～在任中	佐藤 仁	南三陸町長

歴代「監査委員」

在任期間	氏名	備考
識見を有する者		
昭和46年8月 ～昭和53年10月	及川 政吉	
昭和53年12月 ～昭和57年11月	菅野 定一	
昭和57年12月 ～昭和61年11月	村上 壽	
昭和61年12月 ～平成5年1月	菅原 一	
平成5年2月 ～平成10年7月	小野寺 行雄	
平成10年8月 ～平成18年7月	畠山 せつ子	
平成18年8月 ～平成20年7月	昆野 武	
平成20年8月 ～平成24年7月	高橋 台藏	
平成24年8月 ～令和2年3月	生駒 利夫	
令和2年4月 ～在任中	高城 明	
議会選出		
昭和46年8月 ～昭和47年2月	佐藤 一男	
昭和47年3月 ～昭和51年2月	佐藤 俊平	

昭和 51 年 7 月 ～昭和 54 年 2 月	畠山 吉郎	
昭和 55 年 5 月 ～昭和 58 年 4 月	及川 政吉	
昭和 58 年 7 月 ～昭和 62 年 12 月	畠山 文男	
昭和 63 年 2 月 ～平成 3 年 4 月	鈴木 忠雄	
平成 3 年 5 月 ～平成 3 年 12 月	熊谷 厚志	
平成 4 年 2 月 ～平成 7 年 1 月	高橋 清男	
平成 7 年 2 月 ～平成 7 年 12 月	齋藤 久三郎	
平成 8 年 2 月 ～平成 11 年 12 月	佐藤 岩男	
平成 12 年 2 月 ～平成 17 年 9 月	内海 大典	
平成 17 年 11 月 ～平成 21 年 8 月	及川 一郎	
平成 21 年 11 月 ～平成 22 年 4 月	小野寺 修	
平成 22 年 5 月 ～平成 26 年 4 月	千葉 正	
平成 26 年 6 月 ～平成 27 年 8 月	熊谷 伸一	
平成 27 年 9 月 ～平成 30 年 4 月	三浦 由喜	
平成 30 年 5 月 ～令和 4 年 4 月	高橋 清男	
令和 4 年 5 月 ～在任中	小野寺 俊朗	

昭和 48 年 7 月 ～昭和 50 年 7 月	加藤 三男	気仙沼市 議会議長
昭和 50 年 7 月 ～昭和 55 年 3 月	小野寺正二郎	気仙沼市 議会議長
昭和 55 年 5 月 ～昭和 56 年 6 月	小野寺 春雄	気仙沼市 議会議長
昭和 56 年 7 月 ～昭和 60 年 6 月	小山 嘉平治	気仙沼市 議会議長
昭和 60 年 7 月 ～平成元年 6 月	熊谷 勝太郎	気仙沼市 議会議長
平成元年 7 月 ～平成 3 年 6 月	内海 昭逸	気仙沼市 議会議長
平成 3 年 7 月 ～平成 5 年 6 月	日野 敬太郎	気仙沼市 議会議長
平成 5 年 7 月 ～平成 7 年 7 月	熊谷 勝治郎	気仙沼市 議会議長
平成 7 年 7 月 ～平成 9 年 6 月	菅原 勝一	気仙沼市 議会議長
平成 9 年 7 月 ～平成 11 年 6 月	畠山 智	気仙沼市 議会議長
平成 11 年 7 月 ～平成 13 年 6 月	小山 宗雄	気仙沼市 議会議長
平成 13 年 7 月 ～平成 15 年 4 月	吉田 守	唐桑町 議会議長
平成 15 年 5 月 ～平成 15 年 6 月	熊谷 洋一	気仙沼市 議会議長
平成 15 年 7 月 ～平成 16 年 2 月	山内 邦芳	志津川町 議会議長
平成 16 年 3 月 ～平成 17 年 6 月	齋藤 司	気仙沼市 議会議長
平成 17 年 7 月 ～平成 18 年 3 月	小松 紀昭	気仙沼市 議会議長
平成 18 年 6 月 ～平成 20 年 5 月	小山 和廣	気仙沼市 議会議長
平成 20 年 7 月 ～平成 22 年 4 月	村上 俊一	気仙沼市 議会議長
平成 22 年 5 月 ～平成 26 年 4 月	臼井 真人	気仙沼市 議会議長
平成 26 年 6 月 ～平成 27 年 8 月	守屋 守武	気仙沼市 議会議長

歴代「組合議会議長」

在任期間	氏名	備考
昭和 46 年 8 月 ～昭和 48 年 6 月	斉藤 斉	気仙沼市 議会議長

平成 27 年 9 月 ～平成 30 年 4 月	熊谷 伸一	気仙沼市 議会議長
平成 30 年 5 月 ～令和 4 年 4 月	菅原 清喜	気仙沼市 議会議長
令和 4 年 5 月 ～在任中	鈴木 高登	気仙沼市 議会議長

平成 29 年 11 月 ～令和 3 年 11 月	三浦 清人	南三陸町 議会議長
令和 3 年 11 月 ～在任中	星 喜美男	南三陸町 議会議長

歴代「組合議会副議長」

在任期間	氏名	備考
昭和 46 年 8 月 ～昭和 50 年 4 月	菅原 成雄	歌津町 議会議長
昭和 50 年 7 月 ～昭和 54 年 12 月	佐藤 章一郎	本吉町 議会議長
昭和 55 年 2 月 ～昭和 58 年 7 月	阿部 勝雄	歌津町 議会議長
昭和 58 年 7 月 ～昭和 63 年 2 月	佐藤 一男	志津川町 議会議長
昭和 63 年 7 月 ～平成 6 年 9 月	佐々木 洋司	志津川町 議会議長
平成 6 年 11 月 ～平成 11 年 2 月	男帛 清美	唐桑町 議会議長
平成 11 年 2 月 ～平成 12 年 2 月	山内 邦芳	志津川町 議会議長
平成 12 年 4 月 ～平成 13 年 7 月	吉田 守	唐桑町 議会議長
平成 13 年 7 月 ～平成 15 年 12 月	高橋 清男	本吉町 議会議長
平成 16 年 2 月 ～平成 17 年 9 月	阿部 建	歌津町 議会議長
平成 17 年 11 月 ～平成 21 年 11 月	後藤 清喜	南三陸町 議会議長
平成 21 年 11 月 ～平成 23 年 3 月	佐藤 栄	南三陸町 議会議長
平成 23 年 7 月 ～平成 25 年 11 月	後藤 清喜	南三陸町 議会議長
平成 25 年 12 月 ～平成 29 年 11 月	星 喜美男	南三陸町 議会議長

歴代「教育委員長」

在任期間	氏名	備考
平成 6 年 4 月 ～平成 8 年 10 月	阿部 清敬	志津川町 教育長
平成 8 年 11 月 ～平成 9 年 9 月	千葉 雄次	歌津町 教育長
平成 9 年 11 月 ～平成 11 年 9 月	菅原 俊彦	本吉町 教育長
平成 11 年 10 月 ～平成 14 年 10 月	勝倉 彌司夫	志津川町 教育長
平成 14 年 11 月 ～平成 17 年 9 月	熊谷 佃	唐桑町 教育長
平成 17 年 11 月 ～平成 21 年 5 月	小山 克夫	気仙沼市 教育委員長
平成 21 年 7 月 ～平成 25 年 3 月	佐々木 敬三	気仙沼市 教育委員長
平成 25 年 5 月 ～平成 28 年 5 月	齋藤 益男	気仙沼市 教育委員長

※新制度へ移行により任期満了

歴代「教育長」

在任期間	氏名	備考
平成 6 年 4 月 ～平成 8 年 9 月	齋藤 米雄	気仙沼市 教育長
平成 8 年 10 月 ～平成 10 年 1 月	諸岡 文雄	気仙沼市 教育長
平成 10 年 2 月 ～平成 13 年 9 月	吉田 大吉	気仙沼市 教育長

平成 13 年 11 月 ～平成 20 年 5 月	阿部 弘康	気仙沼市 教育長
平成 20 年 7 月 ～平成 28 年 5 月	白幡 勝美	気仙沼市 教育長
平成 28 年 5 月 ～令和元年 5 月	齋藤 益男	気仙沼市 教育長
令和元年 5 月 ～在任中	小山 淳	気仙沼市 教育長

平成 26 年 4 月 ～平成 26 年 4 月	小野寺 和人	
平成 26 年 5 月 ～平成 27 年 3 月	熊谷 力市	
平成 27 年 4 月 ～平成 29 年 3 月	米倉 博	
平成 29 年 4 月 ～平成 31 年 3 月	瀬戸 洋幸	
平成 31 年 4 月 ～令和 2 年 3 月	千葉 義夫	
令和 2 年 4 月 ～在任中	菅原 紀昭	

歴代「収入役・会計管理者」

在任期間	氏名	備考
昭和 46 年 8 月 ～昭和 48 年 12 月	昆野 太兵衛	
昭和 48 年 12 月 ～昭和 60 年 3 月	清水 正雄	
昭和 60 年 7 月 ～平成 5 年 6 月	熊谷 和吉	
平成 5 年 9 月 ～平成 10 年 3 月	佐々木 操	
平成 10 年 4 月 ～平成 14 年 3 月	菅原 務	
平成 14 年 4 月 ～平成 17 年 5 月	門澤 勝雄	
平成 17 年 6 月 ～平成 18 年 3 月	熊谷 房子	職務代理者
平成 18 年 3 月 ～平成 19 年 3 月	神谷 俊一	職務代理者
収入役から会計管理者制へ移行		
平成 19 年 4 月 ～平成 22 年 3 月	神谷 俊一	
平成 22 年 4 月 ～平成 23 年 9 月	廣野 純朗	
平成 23 年 10 月 ～平成 24 年 3 月	小山 義徳	
平成 24 年 4 月 ～平成 26 年 3 月	熊谷 和彦	

歴代「事務局長」

在任期間	氏名	備考
昭和 46 年 9 月 ～昭和 50 年 3 月	菊池 俊一	
昭和 50 年 4 月 ～昭和 51 年 3 月	村上 壽	
昭和 51 年 4 月 ～昭和 52 年 3 月	菅原 政実	
昭和 52 年 4 月 ～昭和 58 年 3 月	村上 善之進	
昭和 58 年 4 月 ～昭和 60 年 3 月	大内 太祐	
昭和 60 年 4 月 ～昭和 61 年 3 月	菅原 宰	
昭和 61 年 4 月 ～昭和 63 年 3 月	千葉 貫二	
昭和 63 年 4 月 ～平成元年 1 月	小野寺 安之	
平成元年 4 月 ～平成 2 年 3 月	西城 昭六	
平成 2 年 4 月 ～平成 4 年 3 月	熊谷 修	
平成 4 年 4 月 ～平成 6 年 3 月	佐藤 東	

平成 6 年 4 月 ～平成 8 年 3 月	鮎貝 宗一	
平成 8 年 4 月 ～平成 10 年 3 月	菅原 勝男	
平成 10 年 4 月 ～平成 11 年 3 月	千葉 紀雄	
平成 11 年 4 月 ～平成 13 年 3 月	山崎 敏雄	
平成 13 年 4 月 ～平成 15 年 3 月	畠山 尚志	
平成 15 年 4 月 ～平成 17 年 3 月	堀籠 昭代	
平成 17 年 4 月 ～平成 21 年 3 月	森谷 利男	
平成 21 年 4 月 ～平成 26 年 3 月	佐藤 光一	
平成 26 年 4 月 ～平成 28 年 3 月	千葉 光広	
平成 28 年 4 月 ～平成 30 年 3 月	吉田 司	
平成 30 年 4 月 ～令和 2 年 3 月	金野 功	
令和 2 年 4 月 ～令和 4 年 3 月	遠藤 修一	
令和 4 年 4 月 ～在任中	小野寺 孝之	

歴代「消防長」

在任期間	氏名	備考
昭和 47 年 4 月 ～昭和 50 年 9 月	加藤 留七	
昭和 50 年 10 月 ～昭和 55 年 9 月	村上 榮	
昭和 55 年 10 月 ～昭和 57 年 3 月	畠山 誠	
昭和 57 年 4 月 ～平成 3 年 3 月	川合 昭伍	

平成 3 年 4 月 ～平成 8 年 3 月	若杉 市郎	
平成 8 年 4 月 ～平成 9 年 3 月	熊谷 昭一	
平成 9 年 4 月 ～平成 14 年 3 月	藤原 博	
平成 14 年 4 月 ～平成 19 年 3 月	菊田 清一	
平成 19 年 4 月 ～平成 20 年 3 月	菅原 武人	
平成 20 年 4 月 ～平成 21 年 3 月	齋藤 一善	
平成 21 年 4 月 ～平成 25 年 3 月	千葉 章一	
平成 25 年 4 月 ～平成 27 年 3 月	及川 淳之助	
平成 27 年 4 月 ～令和 2 年 3 月	菅原 裕二	
令和 2 年 4 月 ～在任中	三浦 行博	

歴代「館長」

在任期間	氏名	備考
平成 6 年 7 月 ～平成 14 年 3 月	草野 明	
平成 14 年 4 月 ～平成 17 年 3 月	千葉 紀雄	
平成 17 年 4 月 ～平成 20 年 3 月	森谷 利男	兼務
平成 20 年 4 月 ～平成 22 年 7 月	小野寺 正人	
平成 22 年 8 月 ～平成 26 年 3 月	佐藤 光一	兼務
平成 26 年 4 月 ～令和 3 年 3 月	佐藤 光一	
令和 3 年 4 月 ～在任中	山内 宏泰	